

日韓・韓日未来パートナーシップ基金共同事業

日本教師韓国派遣プログラム

—未来志向の両国関係の発展に向けて—

2025 年 8 月 17 日～22 日

「日韓・韓日未来パートナーシップ基金」共同事業 日本教師韓国派遣プログラム
参加者：日本の高校教師50人

経済広報センターは8月17～22日の6日間、日本の高校教師50人を韓国に派遣し、学校視察や企業訪問等のプログラムを実施した。

同プログラムは、経団連と韓国経済人協会（韓経協）が設立した日韓・韓日未来パートナーシップ基金の若手人材交流事業の一環として、未来志向の日韓関係構築に向けて、それぞれの高校教師の相互交流を図るもの。

日本の高校教師の訪韓は、2024年8月に続き2回目。同年1月の韓国の高校教師の日本招聘から通算4回目の相互交流となる。

■歓迎レセプションの様様

25年は日韓国交正常化60周年に当たる。歓迎レセプションのあいさつでキム・チャンボム韓経協副会長、キム・サンフン韓国外交部アジア太平洋局長らは、同交流事業の意義と重要性を強調。より良い未来を担う若い世代を教え導く教師たちにとって、両国間の友情と協力の基盤を築く貴重な機会となることを期待すると述べた。

続いて、日本教師を代表し、神奈川県立柏陽高等学校の野渡智博教諭があいさつ。地理的に近い韓国の教師らとの交流は重要であり、経済、文化、教育の面で共に未来を築くことが両国の発展と世界平和への貢献につながると述べた。

大西一義駐韓国日本大使館公使は祝辞で、強固で安定した日韓関係の構築には、政府間のみならず人的往来など、両国間の重層的な交流が必要不可欠であると述べた。

25年1月に訪日した韓国教師26人も歓迎レセプションに参加した。各テーブルの日本教師たちと日頃の教育現場の課題を共有するなど、積極的に意見交換した。

■教育現場や代表的な企業等を視察

仁川国際高等学校および梨花女子大学師範大学付属梨花・金蘭高等学校では、教育方針やカリキュラム、進学状況等について説明を聴くとともに、授業参観や学校内施設の視察を行った。また、日韓の教師同士で教育現場の状況を巡り活発に議論し、積極的に交流した。

企業視察では、LGサイエンスパークを訪問。AIを活用した自動車の装備や部品、快適で豊かな生活を提案する家電など、同社の先端技術を実装した製品について説明を聴いた。

東レ尖端素材では、研究開発の現場や施設を見学。加えて、同社の及能誠久会長から、日韓の相違点や

従業員に求める人物像などを聴取した。

ロッテグループでは、創業者記念館を見学。韓国で資産規模第5位のグローバル企業グループの歴史、現在の躍進ぶりなどについて理解を深めた。

■レクチャー、文化体験を通じ、日韓関係や教育・文化などを多面的に理解

有識者からのレクチャーでは、認知科学者で慶熙大学校経営大学院のキム・サンギョン教授からAI時代に求められる教育について、成均館大学校国政専門大学院のチョ・ミンヒョ教授から韓国の少子高齢化の現状の課題と政策について説明を聴いた。

国会では、チュ・ホヨン韓国国会副議長（韓日議員連盟会長）と面談。ホヨン氏からは、日韓関係の重要性を教え、未来を育む教師に、温かい激励の言葉が贈られた。

駐韓国日本大使館の訪問では、大西公使から、日韓関係や外交官の仕事などの説明を聴いた。

この他、伝統工芸品の作成体験、韓国プロ野球の観戦に加え、キム・ユン韓日経済協会会長が主催した、韓国を代表するマエストロであるクム・ナンセ氏の指揮によるクラシックコンサートを鑑賞するなど、奥深い新旧の韓国文化に触れた。

26年1月には、韓国教師の3回目（通算5回目の相互交流）の来日が予定されている。引き続き、未来志向の日韓関係の構築に向けて取り組んでいく。

以 上



一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。